

## 機能:

コントロールハンドルと  
ブレーキレバー

取外し可能  
フットプレート

フロントキャスター  
(補助輪)

バックレスト・  
シートと  
アームレスト

ディスクブレーキ

リアキャスター  
(補助輪)

取外し可能  
プッシュロッド式のタイヤ

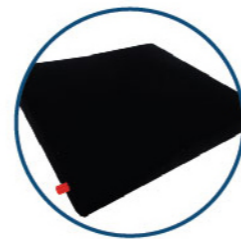
## オプション:



レッグアシスト



クイックペダル



体庄分散クッション

規格	Mサイズ	Lサイズ
全長	1052 mm	1220 mm
全幅	605 mm	627 mm
全高	866 mm	950 mm
重量	13.6 kg	18 kg
シート奥行	350 mm	420 mm
シート幅	360 ~ 420 mm	457 mm
バックレスト高	330 ~ 380 mm	330 ~ 380 mm
体重の目安	100 kg	150 kg



東洋厚生有限公司

電話: +852 2891 8080

Fax: +852 3621 0181

Mail: sales@toyo-mt.com

URL: www.toyo-mt.com

住所: 香港灣仔道185號康樂商業大廈12樓1202室

Profhandは株式会社TESSの日本での登録商標、奥和國際股份有限公司の国際市場における登録商標です。  
Profhandは日本、中国及び米国にて特許を取得しています。また現在、台湾にて特許申請中です。

Copyright © 2013 Toyo Medtech Company Limited. All Rights Reserved.

CE FDA



Profhand  
neuromodulation

世界最先端の  
チェアサイクル(足こぎ車いす)



行きたい場所へ、  
逢いたい人へ...

Design & Developed in Japan

日本での設計と開発

「neuromodulation(神経調整)技術」  
を活用して研究開発した、  
移動・運動・リハビリ・ストレス軽減への  
理想的なパートナーです。



# 利用者へのメリット

歩行困難な方でも、自分の脚でペダルをこぐことを通して、その素晴らしさを体験することができます。



## 🌐 移動範囲・活動幅の拡大

Profhand™チェアサイクルは、脳卒中などで半身が麻痺した方、腰痛、膝関節痛などで歩行困難な方でも、どちらかの足が少しでも動かせれば、自分の両足でこげる可能性があり、活動の幅が広がります。

## 🍃 高い安全性と利便性

ディスクブレーキによる制動方式やフロント・リアキャスターの採用による安全性の高い設計。チェアサイクルでの旅はユーザーに無理のない快適な体験を提供します。



## ☁️ 便利さと快適さを自分のものに

Profhand™チェアサイクルをエクササイズ器具として利用することで、場所と時間の制約を超えた無理のない筋肉トレーニング手段となります。また、座ってこぐことにより下肢にかかる負担が軽減されます。

## 🔑 自分でコントロールできる自信

片手のみで使用可能なコントロールハンドルと前輪駆動、後輪スチアリング機構の採用による360度の旋回機能は、自分でコントロールできる自信をユーザーに提供すると同時に、介助者の負担軽減をサポートします。



## 🏥 リハビリテーションの促進

筋肉トレーニングは患者にとって極めて重要であり、足の筋力維持や機能退化の予防、そして症状回復へも繋がっていきます。Profhand™チェアサイクルをこぐことで、ユーザーの目・耳・脚・脳が協調して訓練を受け、リハビリを促進します。

# 施設関係者へのメリット

Profhand™チェアサイクルをリハビリプログラムに取り入れることで見えてくるメリットがあります。

## 👍 シンプルな操作性

Profhand™チェアサイクルはとても簡単に操作でき、初めての試乗でも無理なく自分自身でコントロールすることが可能です。

## 🔧 メンテナンスの容易性

Profhand™チェアサイクルは精巧な設計と緊密な構造により、ユーザーの頻繁な使用にも適しており、消耗品の交換等も簡単に行えます。

## 🏥 リハビリテーションの新概念

Profhand™チェアサイクルをリハビリプログラムの一部に取り入れることで、リハビリ過程が利用者の活気と活力に溢れた、インタラクティブな交流の場になります。

## 👥 介助負担の軽減



Profhand™チェアサイクルに乗ること、それは『安全と便利』を体験することです。リハビリ過程では、ユーザーは療法士との密接した介護がより少なくなると同時に、より複雑で挑戦性のある訓練を楽しく享受することができます。

## 💖 高い信頼性

Profhand™チェアサイクルは市場販売を始める前から、日本で多くの研究を重ねてきました。そして現在も東北大学大学院医学系研究科で検証説明が続いています。